

マイノリティ・コミュニティにおける社会運動の諸相

— 京都・東九条を事例として —

山口 健一

(京都大学大学院文学研究科グローバルCOE 研究員)

山本 崇記

(立命館大学衣笠総合研究機構 ポストドクトラルフェロー)

山根 実紀

(京都大学大学院教育学研究科 修士課程)

李 洪章

(京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会 特別研究員-DC1)

瀬戸・徐・映里奈

(京都大学大学院農学研究科 修士課程)

2010年12月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

アブストラクト

本ユニットは、戦前から在日朝鮮人が集住し、被差別部落とも隣接している東九条地域を事例とし、マイノリティ集団の社会運動を通して形成・再編される親密権と公共圏の在り様を分析することを目的とした。具体的には、山本が、東松ノ木町の形成過程と現状について、山口は「東九条マダン」における公共性について、山根は、「九条オモニ学校」に通う在日朝鮮人女性に向き合おうとする教師たちの実践について、李と瀬戸・徐は、東九条 CAN フォーラムによる「地域」のまちづくりに着目した多文化共生理念の可能性について、それぞれ考察を行った。

マイノリティによる社会運動は、集団内部における親密的な関係性を通して肯定的なアイデンティティ形成を可能にするが、それが即時に社会運動として公共性を帯びるわけではない。むしろ、民族・階級・ジェンダーなどの複合的な差別構造のなかで、各々の親密圏は衝突し、閉鎖的な圏域を再生産する可能性があるだろう。この点、本ユニットによる研究を通じて、絶えず新たな当事者運動が登場する東九条という地域が、開放的な親密圏を通じた公共圏のポジティブな再編成の可能性をうかがわせるものであるということがわかった。

2009年度次世代研究「マイノリティ・コミュニティにおける社会運動の諸相 ―京都・東九条を事例として―」（研究代表：高誠晩）による成果である。

【メンバー】（ ）内は2009年度プロジェクト時点

- 山口 健一（京都大学大学院文学研究科グローバルCOE 研究員）
山本 崇記（立命館大学衣笠総合研究機構 ポストドクトラルフェロー）
山根 実紀（京都大学大学院教育学研究科 修士課程）
李 洪 章（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会 特別研究員
-DC1）
瀬戸・徐・映里奈（京都大学大学院農学研究科 修士課程）
高 誠 晩（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程）
玉 城 福 子（大阪大学大学院人間科学研究科 博士前期課程）
宇都宮めぐみ（大阪大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会 特別研究員
-DC1）
小松原 織香（プロジェクトQ（任意団体）メンバー）
李 定 垠（ソウル大学女性研究所 研究員 / 京都大学GCOE外国人共同研究者）